

福岡県米麦大豆生育情報

平成31年2月28日
福岡県農林業総合試験場

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	1月17日～2月26日 (41日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	7.4	12.4	2.9	197	74.0
前年差(比)	+3.1	+3.8	+2.5	121%	138%
平年差(比)	+1.8	+2.4	+1.3	125%	76%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月20日播種、大麦:11月26日播種]

1月17日～2月26日の平均気温は平年より1.8℃高く、日照時間は25%多く、降水量は24%少なく、高温多照少雨で経過した。

2月27日現在の麦類の生育は、草丈は平年より45～102%長く、主稈葉数は0.6～1.3葉多く、莖数は、平年並～40%多く、生育はかなり進んでいる。また、莖立期は小麦で2月3～4半旬、大麦で2.3～2.4半旬で前年より早かった。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

今後の降雨に備えるために、排水対策が極めて重要である。土入れを兼ねて作溝し、地表水を排水する。排水口の整備、枕地作溝、溝さらえ等の排水対策を徹底する。

(2) 踏圧、土入れ

莖立期以降の踏圧は行わない。土入れは排水対策や倒伏防止、雑草防除の効果が高く、莖立期後10日頃までに実施する。播種期や地域による生育差が大きいため、作業はほ場の生育状況をみて判断する。

(3) 雑草防除

広葉雑草を中心に発生が多いほ場があり、土入れや莖葉処理除草剤処理で防除を行う。雑草の発生状況を観察し、莖葉処理除草剤を適期内に処理する。除草剤は「普通作雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

小麦、食料用大麦、裸麦で、2回目の追肥が終わっていないほ場では、基準量を速やかに施用する。

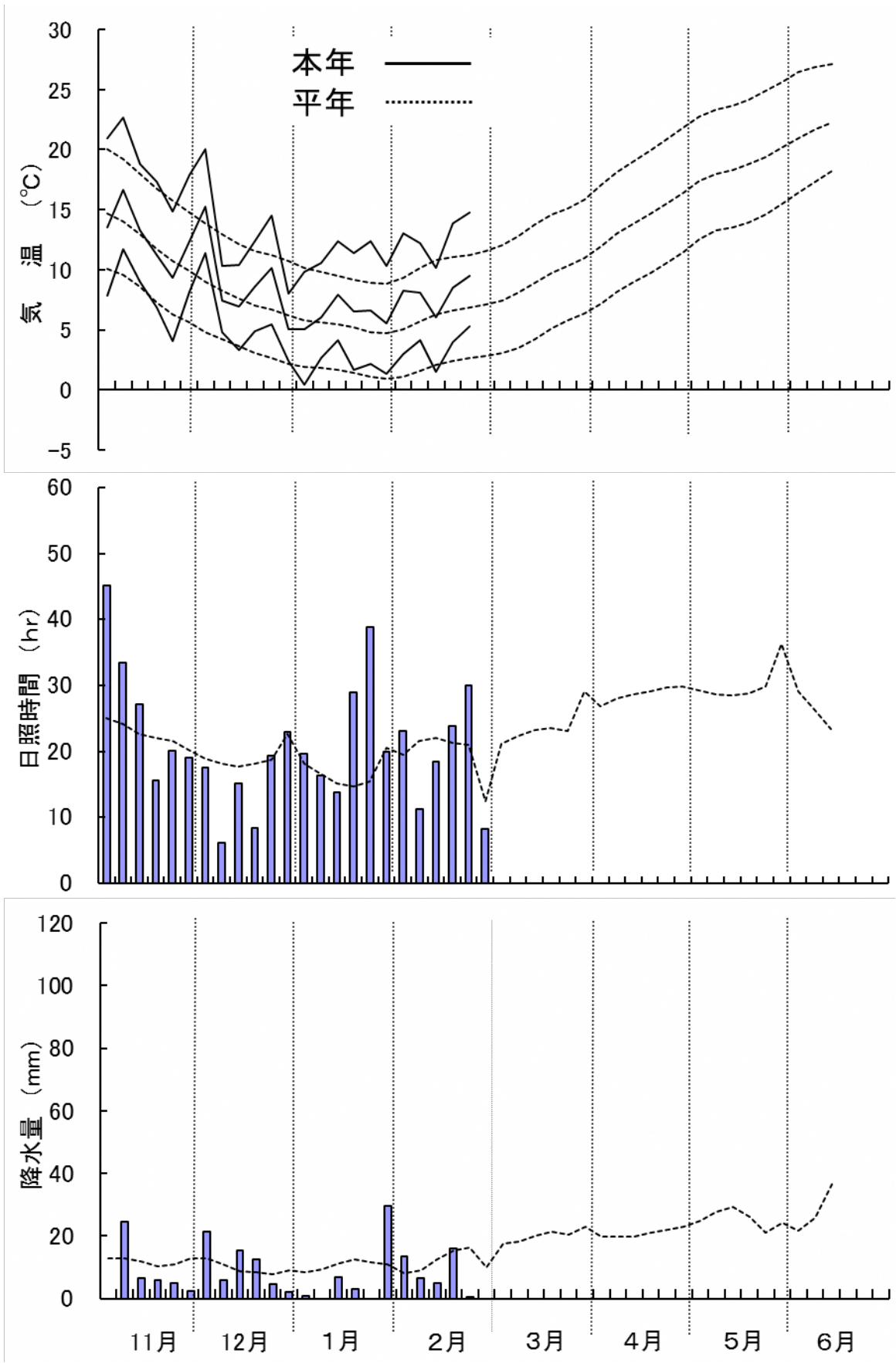
4. 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	出芽期 月.日	1月17日			2月27日			茎立期 月. 半月
					草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	
					Cm	本/m ²	L	Cm	本/m ²	L	
農産部	11.20	チコ ^ゴ イ ^ズ ミ	本年	11.26	17.2	548	4.4	45.7	1,021	6.7	2.3
			前年比(差)	-4	147	176	+1.2	267	156	+1.9	(3.1)
			平年比(差)	-6	145	128	+0.5	187	140	+0.6	—
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	11.26	18.5	460	4.4	50.0	764	6.7	2.3
			前年比(差)	-4	159	150	+1.1	292	121	+1.9	(3.1)
			前9年(差)	-6	147	111	+0.4	199	115	+0.7	—
11.26	ほうしゅん	本年	12.3	12.1	605	4.3	37.0	1,314	8.0	2.4	
		前年比(差)	-4	146	193	+1.3	289	108	+2.2	(3.1)	
		平年比(差)	-4	142	157	+0.7	202	119	+1.2	—	
筑後分場	11.20	シカ ^ゴ ネ ^キ	本年	12.1	13.6	419	4.6	38.0	918	7.8	2.4
			前年比(差)	-2	140	96	+0.7	227	110	+1.6	(3.2)
			平年比(差)	±0	109	93	+0.4	145	111	+0.7	—
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	12.1	17.8	390	4.6	50.3	712	7.5	2.3
			前年比(差)	-2	145	101	+1.1	273	85	+1.7	(3.1)
			平年比(差)	-1	131	93	+0.4	180	96	+0.6	—
11.26	はるしずく	本年	12.4	13.8	499	4.4	39.0	1,349	8.4	2.3	
		前年比(差)	-10	164	229	+0.9	232	163	+2.1	(3.2)	
		平年比(差)	-5	130	135	+0.7	170	110	+1.3	—	

注1) 平年値はH20～H29年播の平均値。

2) 前年比(差)、平年比(差)：草丈および茎数は前年比および平年比、出芽期および葉数は前年差および平年差を示す。

3) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：平成30年11月～平成31年6月)